

2008年9月11日

三井化学株式会社
株式会社トクヤマ

モノシランガス製造プロセスの共同開発開始のお知らせ

三井化学株式会社(以下「三井化学」。本社:東京都港区、社長:藤吉建二)および株式会社トクヤマ(以下「トクヤマ」。本部:東京都渋谷区、社長:中原茂明)は、モノシランガス製造プロセスの共同開発を行うことを合意しましたのでお知らせします。

モノシランガスは、今後急激な需要の伸びが予想されている薄膜系太陽電池を始め、半導体、液晶などの各種電子デバイスの製造プロセスにおいて、シリコン膜、シリコン酸化膜形成用に用いられる特殊ガスです。

三井化学は長年、モノシランガスの製造・販売におけるリーディングカンパニーとして、豊富な合成・分析の技術経験を生かし、当該製品を提供し、独自製造プロセス「合金法」を含めた幅広い製造プロセスの検討を行ってまいりました。一方トクヤマも、長年半導体に用いられる高品位ポリシリコンを始めとする、金属シリコンを出発原料とした豊富なシリコン原料系の製品群を有し、これらを提供するとともに得意とするシリコン原料製品の製造技術を活用すべく、モノシランガスの製造プロセスの検討を行ってまいりました。

今回、両社の長年に渡る豊富な知見と高度な技術を融合させることで、モノシランガスの新規製造プロセスの開発を早期に達成するため、共同開発を行うことといたしました。

共同開発技術完成後には、旺盛な需要が予想される太陽電池用途をはじめとするモノシランガス需要へ速やかに応えるべく、両社による早期の共同事業化を視野に入れております。

三井化学は、今般、経済・環境・社会の3軸経営の確立と革新的な新技術の創出により新たな価値創造へ挑戦することを基本コンセプトとした、08年度を初年度とする4年間の新しい中期経営計画(08中計)を策定いたしました。モノシランガスが含まれる機能材料事業は、成長ドライバーたるべく高利益事業セクターとして、自動車材、IT材、エネルギー材の成長する3市場で、重点的な事業拡大を掲げております。この度、太陽電池用材料であるモノシランガスの製造プロセスの共同開発に取り組むことで、重点分野と位置づけたエネルギー市場分野での更なる成長を図って参ります。

トクヤマは、今年創立90周年を迎え、更なる成長を目指すべく、「挑戦と変革」をキーワードとした100周年ビジョンを掲げ、第1ステップ「テイク・オフ」と位置づけた08年度を初年度とする3年間の中期経営計画を策定しました。「戦略的な成長事業の強化」を基本戦略の一つとし、その重点項目として環境・エネルギー、電子材料・部材の関連市場をターゲットとした「新規事業の創出」を掲げています。モノシランガスの製造プロセスの共同開発は、この新規事業創出の一環であり、特に需要の伸びが期待できる太陽電池向け材料としては、結晶系に加え、薄膜系の材料を揃えることで、同市場分野での成長を図って参ります。

＝本件に関するお問い合わせ先＝

三井化学株式会社	CSR・広報部	TEL03-6253-2100
株式会社トクヤマ	広報・IRグループ	TEL03-3499-8023